

楽しい理科 3年

この資料では、令和2年度版『楽しい理科』にもとづいて、学校の授業と、学校の授業以外で取り組む学習活動との組み合わせによりご指導いただく場合の学習指導計画案を示してあります。

この資料の記載にかかわらず、地域や学校の状況に合わせて、学校の授業以外の場で取り組む学習活動を増減するなどのご対応をお願いいたします。

- ・授業は1単位時間45分を基本としています。
- ・学校の授業で取り上げることが必要であると考えられる教材・学習活動は、教師と児童のかかわり合いや児童同士のかかわり合いが必要な学習への動機づけや、協働学習、学校でしか実施できない学習活動などを選定しています。
- ・学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動は、個別でも可能な調査活動や復習などにかかわる学習活動などを選定しています。この活動の導入やまとめなどについては、学校の授業で行うよう配慮してください。
- ・教科書にある「やってみよう」「しらべてみよう」は、配当時数に含まれていません。「やってみよう」「しらべてみよう」は必ず学習しなければならないものではなく、別の実験方法を示したり、知識・理解を深めたりすることができるようにしています。

1 太陽とかげを調べよう

指導時期:4月 教科書ページ:P.8~17
配当時数:4(4)時間 ※()内の数字は標準配当時間

単元のねらい	影のでき方や時間ごとの影の向きと太陽の位置を調べることを通して、影は太陽の光を遮るとでき、影の向きは太陽の位置の変化によって変わることをとらえさせるとともに、主に差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。				学校の授業の必要時数【3.6時間】 学校の授業以外の時数【0.4時間】
時	教科書ページ	学習問題	活動	学習内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
1	P.8~9	かげふみ遊びをしよう。	体験	・影と太陽の位置関係や影のでき方について問題を見いだす。	
2	P.10~11	かげのでき方は、太陽のいちとかんけいがあるのだろうか。	観察1 観察2	・影は太陽の光が物に遮られるとできることや、太陽と反対の向きにできること。	
3 4	P.12~16	時間がたつにつれて、かげの向きと太陽のいちは、どのようにかわるのだろうか。	観察 まとめ	・影の位置は太陽の動きによって変わること。 ・影は、太陽の光が物に遮られると、太陽の反対側にできること。 ・影のできる向きと反対に、太陽の位置は、東の方から南の空を通過して西の方に変わっていくこと。 ・影のでき方と太陽の位置についてまとめる。	○教科書P.16「まとめよう」を参考にし てまとめる。【0.4時間】

2 身近なしぜんのかんさつ

指導時期:4月 教科書ページ:P.18~29
配当時数:6(7)時間 ※()内の数字は標準配当時間

単元のねらい	身のまわりの植物や動物の色、形、大きさを調べたり、動物のいる場所や様子を調べたりすることを通して、植物や動物にはそれぞれに固有の形態があることや生物はその周辺の環境とかかわって生きていることをとらえさせるとともに、主に差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や生物を愛護する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。				学校の授業の必要時数【4時間】 学校の授業以外の時数【2時間】
時	教科書ページ	学習問題	活動	学習内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
1	P.18~20	学校のまわりをたんけんして、どんな植物や動物が見られるか、さがしてみよう。	観察	・学校のまわりや野原でいろいろな植物、動物を探し、見たり触れたりして、植物、動物の姿や動物のいる場所について問いをもつ。	
2 3	P.21~22	植物は、どのようなすがたをしているのだろうか。	観察	・花の色や形、葉の形、大きさ、手触りは植物によって違うこと。	○植物を探して観察する活動【1時間】 ※安全への配慮のため、必ず保護者の監督下で行う。
4 5	P.23~25	動物は、どのようなすがたをしているのだろうか。	観察	・動物の色、形、大きさなどは、動物の種類によって違いがあること。	○動物の色や形、大きさなどを観察する活動【1時間】 ※安全への配慮のため、必ず保護者の監督下で行う。
6	P.26~27	動物はどのような場所で何をしているのだろうか。	観察	・動物は食べ物のある場所や、身を守れる場所をすみかにして暮らしていること。	

3 植物の育ち方(1) 植物を育てよう

指導時期:5月 教科書ページ:P.30~39
配当時数:4(4)時間 ※()内の数字は標準配当時間

単元のねらい	植物の種や植物の育つ様子を観察することを通して、植物の育ち方には種から発芽し子葉が出て、葉がしげっていくという一定の順序があることをとらえさせるとともに、主に差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や生物を愛護する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。				学校の授業の必要時数【3.5時間】 学校の授業以外の時数【0.5時間】
--------	--	--	--	--	--

時	教科書ページ	学習問題	活動	学習内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
1	P.30～33	植物のたねをかんさつしてみよう。	観察	・ヒマワリやホウセンカの種を観察し、植物が種からどのように育つのか関心をもつ。	○ヒマワリやホウセンカの種を調べる活動【0.5時間】 ※安全への配慮のため、必ず保護者の監督下で行う。
2 3 4	P.34～39	ヒマワリやホウセンカは、たねからどのように育つのだろうか。	観察 まとめ	・植物の育ち方は、種から発芽し、子葉が出て、やがて葉が出るという一定の順序があること。 ・芽が出てから葉が出るまでの順序をまとめる。	

4 こん虫の育ち方(1) チョウを育てよう

指導時期:6月 教科書ページ:P.40～49
配当時間数:7(7)時間 ※()内の数字は標準配当時間

単元のねらい	チョウの卵や幼虫を探して育てたり、バッタやトンボの成長の様子を観察したりすることを通して、チョウの育ち方には、「卵→幼虫→蛹→成虫」という一定の順序があり、幼虫の時期には食べ物を食べ、脱皮をして成長し、蛹の時期には食べ物を食べないでやがて成虫になることや、バッタやトンボのように「卵→幼虫→成虫」と変態の仕方が違うものがあることをとらえさせるとともに、主に差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や生物を愛護する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。	学校の授業の必要時間数【5.6時間】 学校の授業以外の時間数【1.4時間】
--------	---	--

時	教科書ページ	学習問題	活動	学習内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
1 2	P.40～41	モンシロチョウをかんさつしよう。	観察	・畑などでチョウを探し、チョウの居場所および活動の様子を調べ、チョウ(モンシロチョウ)が産卵した卵を採取する。 ・採取した卵のその後の変化に着目して飼育し、育つ様子についての問題を見いだす。	○バッタの幼虫から成虫になるまでを調べる活動【1時間】 ※休み時間等を利用しての継続観察 ※家庭で継続観察することも考えられる。 ○教科書P.48「まとめよう」を参考にし てまとめる。【0.4時間】
3 4 5	P.42～45	モンシロチョウは、たまごからどのように育つのだろうか。	観察1 観察2	・モンシロチョウは卵から幼虫が生まれること。 ・モンシロチョウの幼虫は、キャベツの葉等を食べ、何回も脱皮しながら育つこと。 ・モンシロチョウは、卵→幼虫→蛹→成虫というよう な一定の順序で成長すること。	
6 7	P.46～48	バッタは、どのようなじゅんじよで育つのだろうか。	観察 まとめ	・バッタはチョウの育ち方の過程とは異なり、卵→幼虫→成虫という一定の順序で成長すること。 ・昆虫には育ち方の異なるものがあること。 ・昆虫の育ち方の順序についてまとめる。	

5 植物の育ち方(2) 植物のからだを調べよう

指導時期:7月 教科書ページ:P.50～57
配当時間数:3(4)時間 ※()内の数字は標準配当時間

単元のねらい	種をまき、育ててきた植物を観察したり、体のつくりを調べたりすることを通して、植物は育つにつれて茎が伸び、葉がしげり、やがて花を咲かせることや、根、茎、葉からできていることをとらえさせるとともに、主に差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や生物を愛護する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。	学校の授業の必要時間数【3時間】 学校の授業以外の時間数【0時間】
--------	--	--------------------------------------

時	教科書ページ	学習問題	活動	学習内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
1	P.50～51	このごろの植物は、どのように育っているのだろうか。	観察	・ヒマワリやホウセンカは、草丈が伸び、葉がしげり、花が咲くこと。 ・植物は、春のころに比べて成長していること。	
2 3	P.52～54	植物のからだのつくりはどのようになっているのだろうか。	観察 まとめ	・ヒマワリやホウセンカの体は、根、茎、葉からできていて、成長すると花が咲くこと。 ・植物の体は、根、茎、葉からできていること。 ・植物の成長や体のつくりについてまとめる。	

6 日なたと日かげをくらべよう

指導時期:7月 教科書ページ:P.58～65
配当時間数:5(5)時間 ※()内の数字は標準配当時間

※夏休み前に単元を導入し、夏休み中に観察を位置づけることも考えられる。

単元のねらい	太陽の光が当たっている地面と当たっていない地面の暖かさや湿り気を体感を通して比べたり、温度計を使って温度の違いを調べたりすることを通して、地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では、地面の暖かさや湿り気の違いがあることをとらえさせるとともに、主に差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。	学校の授業の必要時間数【2.6時間】 学校の授業以外の時間数【2.4時間】
--------	---	--

時	教科書ページ	学習問題	活動	学習内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
1	P.58～61	日なたと日かげの地面のようすにはどのようなちがいがあのだろうか。	観察	・日なたの地面は明るく暖かく乾いているが、日陰の地面は暗く冷たく湿っていること。	
2 3	P.62～63	日なたと日かげの地面では、温度はどのくらいちがうのだろうか。	観察	・日なたと日陰の地面では、日なたの方が温度は高いこと。	○温度計を使って、地面の温度を調べる活動【1時間】 ※安全への配慮のため、必ず保護者の監督下で行う。
4 5	P.63～64	太陽の光によって、地面はあたためられるのだろうか。	観察 まとめ	・朝と昼の地面の温度を比べると、昼の方が高いので、太陽の光によって地面は暖められること。 ・日なたと日陰の地面の様子の違いについてまとめる。	○朝と昼の地面の温度を調べる活動【1時間】 ※安全への配慮のため、必ず保護者の監督下で行う。 ○教科書P.64「まとめよう」を参考にし、まとめる。【0.4時間】

7 こん虫の育ち方(2) こん虫のからだを調べよう

指導時期:8月 教科書ページ:P.70～77
配当時間数:4(5)時間 ※()内の数字は標準配当時間

単元のねらい	トンボやアリ、チョウの体のつくりを調べることを通して、昆虫の成虫の体は、目や口や触角のある頭、3対6本のあしがついている胸、いくつかの節からできている腹の3つの部分からできていることをとらえさせるとともに、主に差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や生物を愛護する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。				学校の授業の必要時間数【4時間】 学校の授業以外の時間数【0時間】
時	教科書ページ	学習問題	活動	学習内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
1 2	P.70～71	トンボのからだのつくりは、どのようになっているだろうか。	観察	・トンボの体は、頭、胸、腹の3つの部分からできていること。 ・トンボはあしが6本、はねが4枚あること。 ・頭には目、触角、口があること。	
3 4	P.72	トンボのからだどアリやチョウのからだのつくりは、どんなところがにているだろうか。	観察 まとめ	・昆虫の成虫の体は、頭、胸、腹の3つの部分からできていて、胸には6本のあしがあること。 ・昆虫の体のつくりについて、まとめる。	

8 植物の育ち方(3) 花がさいた後の植物を調べよう

指導時期:9月 教科書ページ:P.78～83
配当時間数:4(4)時間 ※()内の数字は標準配当時間

単元のねらい	育ててきた植物を観察したり、記録をまとめたりすることを通して、植物の育ち方には、種から発芽し、子葉が出て、葉がしげり、花が咲き、実をつけてやがて枯れるという一定の順序があることをとらえさせるとともに、主に差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や生物を愛護する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。				学校の授業の必要時間数【4時間】 学校の授業以外の時間数【0時間】
時	教科書ページ	学習問題	活動	学習内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
1	P.78～79	花がさいた後の植物はどのように育っているのだろうか。	観察	・植物は、花が咲いた後には、実をつけること。	
2 3	P.80～83	植物が育ってきたようすをまとめよう。	記録整理	・植物の育ち方は、種から芽が出て、葉をしげらせ、花が咲いた後には実をつけ、やがて枯れていくという一定の順序があること。	

9 風やゴムの力

指導時期:9～10月 教科書ページ:P.84～97
配当時間数:7(9)時間 ※()内の数字は標準配当時間

単元のねらい	風やゴムの力で動く車を作り、帆に当てる風の強さを変えたときの車の動く距離や、ゴムの伸びや本数を変えたときの車の動く距離を調べることを通して、風やゴムの力は物を動かすことができることや、風やゴムの力の大きさを変えると物が動く様子も変わることとらえさせるとともに、主に差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。				学校の授業の必要時間数【6.7時間】 学校の授業以外の時間数【0.3時間】
時	教科書ページ	学習問題	活動	学習内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
1 2	P.84～86	風の力で動く車を作って、走らせてみよう。	製作 体験	・風の力で動く車(帆のついた車)を作る。 ・作った車を使って遊ぶ中で、風には物を動かすはたらきがあること、風の強さと車が動く距離の関係などについて問いをもつ。	

3 4	P.87 ~89	風の強さによって、車の動きよりはどのようにちがうだろうか。	実 験	・風の力には、物を動かすはたらきがあること。 ・物に当てる風の強さが強いほど、物は遠くまで動くこと。	○教科書P.95「まとめよう」を参考にし てまとめる。【0.3時間】
5	P.90 ~91	ゴムの力で動く車を作って、走らせてみよう。	製 作 体 験	・ゴムの力で動くように、車と発車台を作る。 ・作った車を使って遊ぶ中で、伸ばしたゴムには物を動かすはたらきがあること、ゴムを伸ばす長さや車の動く距離の関係などについて問いをもつ。	
6	P.91 ~92	ゴムののびによって、車の動きよりはどのようにちがうだろうか。	実 験	・伸ばしたゴムには、元の長さに戻ろうとする性質により、物を動かすはたらきがあること。 ・ゴムを長く伸ばすと、物を動かすはたらきが大きくなること。	
7	P.93 ~95	ゴムの本数によって、車の動いたきよりはどのようにちがうだろうか。	実 験 ま と め	・ゴムを2本重ねると、ゴムの元に戻ろうとする力が1本のときより強くなり、物を動かすはたらきが大きくなること。 ・風やゴムの力と、物を動かすはたらきについてまとめる。	

10 光のせいしつ

指導時期：10月 教科書ページ：P.98~111
配当時間数：6(7)時間 ※()内の数字は標準配当時間

単元のねらい	平面鏡や虫めがねを使い、光の進み方や光が当たった物の明るさや暖かさを調べることを通して、日光は直進することや反射させたり重ねたり集めたりできること、物に日光を当てたり集めたりすると物の明るさや暖かさが変わることとをたえさせるとともに、主に差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。				学校の授業の必要時間数【5.7時間】 学校の授業以外の時間数【0.3時間】
時	教科書 ページ	学習問題	活 動	学習内容	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
1 2	P. 98 ~100	日光をかがみではね返してみよう。	体 験 話 合 い	・鏡を使って日光を反射させ、反射させた光の進み方や、光が当たったところの明るさや暖かさについての問題を見いだす。	○教科書P.108「まとめよう」を参考に してまとめる。【0.3時間】
3	P.101 ~102	反しやさせた光は、どのように進むのだろうか。	実 験	・鏡で反射させた光は、直進すること。	
4 5	P.103 ~104	光を当てたところの明るさやあたたかさはどうなるだろうか。	実 験 1 実 験 2	・反射させた光が当たったところは、明るく、暖かくなること。 ・反射させた光がいくつも重なって当たったところは、鏡1枚のときよりも、明るく、暖かくなること。	
6	P.106 ~108	虫めがねで日光を集めたとき、明るさやあたたかさはどうなるだろうか。	実 験 ま と め	・虫めがねを使うと、日光を集めることができ、日光を集めたところを小さくするほど明るくなり、紙が焦げ、燃え出すぐらいに温度が上がること。 ・光の性質について学習したことをまとめる。	

11 豆電球に明かりをつけよう

指導時期：11月 教科書ページ：P.112~127
配当時間数：7(7)時間 ※()内の数字は標準配当時間

単元のねらい	乾電池と豆電球を導線でつないで、豆電球が点灯するつなぎ方と点灯しないつなぎ方や、回路の一部にいろいろな物を入れて豆電球が点灯するかを調べることを通して、回路ができると電気が通り豆電球が点灯することや、物には電気を通す物と通さない物があることをたえさせるとともに、主に差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。				学校の授業の必要時間数【4.2時間】 学校の授業以外の時間数【2.8時間】
時	教科書 ページ	学習問題	活 動	学習内容	学校の授業以外の場において行う ことが考えられる教材・学習活動
1	P.112 ~116	どのように豆電球をかん電池につなげば、明かりがつくだろうか。	実 験	・豆電球を乾電池1個につないだとき、電気の通り道(回路)ができると明かりがつくこと。	○回路にいろいろな物を入れて、明かりがつく物を調べる活動【1時間】 ※安全への配慮のため、必ず保護者の監督下で行う。 ○教科書P.123「まとめよう」を参考に してまとめる。【0.3時間】 ○回路や電気を通す物・通さない物を利用したおもちゃを作る活動【1.5時間】 ※安全への配慮のため、必ず保護者の監督下で行う。
2 3	P.117 ~118	回路のと中に、べつのどう線やスイッチをつないでも、豆電球の明かりはつくだろうか。	実 験	・明かりがつくときの回路は、1つの輪のようになっていること。	
4 5	P.120 ~122	電気を通すものや通さないものには、どんなものがあるだろうか。	実 験 ま と め	・鉄やアルミニウム、銅などの金属は電気を通し、木や紙、ゴム、ガラスなどの金属以外の物は電気を通さないこと。 ・電気の通り道や電気を通す物・通さない物についてまとめる。	
6 7	P.124 ~125	かん電池と豆電球を使って、いろいろなものを作ってみよう。	製 作	・作りたい物を考え、工夫して乾電池や豆電球などを利用したおもちゃを作ること。	

12 音のせいしつ

指導時期:12月 教科書ページ:P.128~135
 配当時間:6(6)時間 ※()内の数字は標準配当時間

単元のねらい		身近な打楽器や自作の楽器で音を出して音の大きさと物の震え方を調べることを通して、物から音が出たり伝わったりするときは物が震えていることや、音の大きさが震え方に関係していることをとらえさせるとともに、主に差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。			学校の授業の必要時間【5.2時間】 学校の授業以外の時間【0.8時間】	
時	教科書ページ	学習問題	活動	学習内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	
1	P.129~130	いろいろなものを使って音を出してみよう。	体験話し合い	・打楽器を使って音を出したり、身近な物を使って工夫しながら音を出したりして、音が出ているときの物の様子や音の伝わり方についての問題を見いだす。	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	
2 3	P.131	音が出ているとき、ものはふるえているのだろうか。	実験1 実験2	・音が出ている物は、震えていること。 ・小さな音が出ているときは震え方が小さく、大きな音が出ているときは震え方が大きくなること。		
4 5	P.133	糸電話を作ってみよう。	製作話し合い	・材料を準備し、糸電話を作る。 ・できた糸電話を使って、糸が張った状態では音が伝わり、糸がたるむと音が伝わらないことなどから、糸が音を伝えることについて疑問をもつ。		○糸電話を作る活動【0.5時間】 ※安全への配慮のため、必ず保護者の監督下で行う。
6	P.134~135	糸電話は、糸が音をつたえているのだろうか。	実験 まとめ	・音は、糸を震わせて伝わること。 ・糸電話は糸をぴんと張ると、震えが大きくなって音をよく伝えること。 ・音が出ているときの物の様子や伝わり方についてまとめる。		○教科書P.135「まとめよう」を参考に してまとめる。【0.3時間】

13 じしゃくのせいしつ

指導時期:1月 教科書ページ:P.136~151
 配当時間:11(11)時間 ※()内の数字は標準配当時間

単元のねらい		身近な物に磁石を近づけたり、2つの磁石を近づけたときの磁石の動きを調べたりすることを通して、磁石に引きつけられる物と引きつけられない物があり、磁石に引きつけられる物には、磁石に近づけると磁石になる物があることや、磁石の異極は引き合い同極は退け合うことをとらえさせるとともに、主に差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。			学校の授業の必要時間【7.2時間】 学校の授業以外の時間【3.8時間】	
時	教科書ページ	学習問題	活動	学習内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	
1 2	P.136~137	いろいろなものにじしゃくを近づけて気づいたことを話し合ひましよう。	体験話し合い	・磁石のはたらきや性質についての問題を見いだす。	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	
3	P.138~140	じしゃくにつくものはどんなものだろうか。	実験	・磁石には鉄でできている物がつくこと。		○身近にある物を、磁石につく物とつかない物に分ける活動【0.5時間】 ※安全への配慮のため、必ず保護者の監督下で行う。
4	P.141~142	鉄との間がはなれていても、じしゃくは鉄を引きつけるのだろうか。	実験	・磁石と鉄の間があいていたり、紙やプラスチックが間にあつたりしても、磁石は鉄を引きつけること。 ・磁石が鉄を引きつける力は、磁石と鉄の距離によって変わること。		○磁石が鉄をよく引きつけるところを調べる活動【0.5時間】 ※安全への配慮のため、必ず保護者の監督下で行う。
5	P.142	じしゃくが鉄を引きつける力はどこも同じだろうか。	実験	・磁石の両端が物を引きつける力が強いこと。その部分を「極」ということ。		
6	P.143~144	ぼうじしゃくも方いじしんのように北と南を指して止まるだろうか。	実験	・磁石は南北を指して止まる性質があること。 ・磁石にはN極とS極があること。		
7	P.144~145	じしゃくのきよくに、ほかのじしゃくのきよくを近づけるとどうなるだろうか。	実験	・磁石は同じ極は退け合い、違う極は引き合うこと。		○教科書P.148「まとめよう」を参考に してまとめる。【0.3時間】
8	P.146~148	じしゃくについていたくぎは、じしゃくになっているのだろうか。	実験 まとめ	・磁石に引きつけられる物の中には、磁石につけると磁石になる物があること。 ・磁石につく物とつかない物、磁石のはたらきや性質についてまとめる。		
9 10 11	P.150~151	じしゃくのせいしつをりょうして、おもちゃを作ってみよう。	製作	・磁石の学習経験をもとに、磁石を使ったおもちゃを作ること。		

14 ものの重さをくらべよう

指導時期:2月 教科書ページ:P.152~161
 配当時間数:6(6)時間 ※()内の数字は標準配当時間

単元のねらい	形を変えたり、同体積にしたりした物を、体感をもとにてんびんや電子てんびんを用い数値化して重さの違いを調べることを通して、物は形が変わっても重さは変わらないことや、体積が同じでも重さは違うことがあるということをとらえさせるとともに、主に差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。
--------	--

学校の授業の必要時数【5.6時間】
 学校の授業以外の時数【0.4時間】

時	教科書ページ	学習問題	活動	学習内容	学校の授業以外の場合に行うことが考えられる教材・学習活動
1 2	P.152 ~154	いろいろなものの重さをくらべてみよう。	実験	・物には重さがあり、物によって重さに違いがあること。	
3 4	P.154 ~157	ものは形が変わると、重さもかわるのだろうか。	実験1 実験2 実験3	・丸めた粘土を平らに延ばしても、重さは変わらないこと。 ・平らなアルミニウムはくを丸めても、重さは変わらないこと。 ・粘土やアルミニウムはくをちぎっても、重さは変わらないこと。 ・物の形が変わっても、物の重さは変わらないこと。	
5 6	P.158 ~160	同じ体積のものでも、重さにちがいがあのだろうか。	実験1 実験2 まとめ	・同体積の食塩と砂では、砂の方が食塩より重いこと。 ・同体積の鉄とプラスチックでは、鉄の方がプラスチックより重いこと。 ・物は形が変わっても重さは変わらないこと、および同じ体積でも重さが違う物があることをまとめる。	

○教科書P.160「まとめよう」を参考に
 してまとめる。【0.4時間】